

表 シカゴ連銀経済報告(2025年4月23日公表)

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用はわずかに(slightly)増加 賃金はわずかに上昇	関係者の多くは、採用条件が安定または緩和傾向にあると報告したが、製造業を中心に一部では採用困難が続いた。賃金と福利厚生費用は全体的にわずかに上昇した。複数の関係者は、過去数年間で年間賃金が非常に大きく上昇したが、来年の年間賃金上昇率は過去の平均に近い水準になると指摘した。
物価	控えめに(modestly)上昇	関係者は、今後12カ月間で上昇ペースが加速すると予想した。生産者物価はわずかに上昇、非労働投入コストは上昇し、関係者は原材料や設備の価格上昇を報告した。製造業の関係者の多くは、投入コストと販売価格の両方に関する不確実性が高まっていると述べ、その要因が関税政策の変更であると指摘した。ある機械製造メーカーは、サプライヤーが価格を毎日変更していると報告した。消費者物価は全体として控えめに上昇した。小売業界のアナリストは、関税引き上げの価格影響は主に年後半に表れると予想し、小売業者は関税コストの約3分の1を消費者へ転嫁する見込みだと述べた。
個人消費	控えめに(modestly)増加	レジャーとホスピタリティ部門への支出は全体的に鈍化したが、レストランの売上は増加した。一方、ホテル、航空旅行、観光施設への支出は減少した。一部の関係者は、カナダからの訪問者が年初来で緩やかに減少していると指摘した。
企業支出	わずかに(slightly)減少	トラック輸送の需要は横ばいとなったが、輸送運賃はわずかに低下した。製造業の在庫は全体的に適切な水準にあり、原材料の不足に関する報告は引き続き低水準であった。
建設と不動産	わずかに(slightly)増加	建設と不動産活動は報告期間中にわずかに増加した。住宅建設は横ばいとなった。住宅不動産の動きは、タウンハウスや初めて家を買う人に適した小さな家への需要増加を背景にわずかに増加した。住宅価格もわずかに上昇したが、家賃は変化はなかった。非住宅建設は、関税による大型家電製品、ガラス、窓などの価格上昇が活動を鈍化させるという懸念が聞かれたものの、わずかに増加した。商業用不動産の需要は変化はなかった。
製造業	横ばい(flat)	機械の売上高は、航空宇宙産業の需要の増加が自動車産業の需要の減少によって相殺され、緩やかに減少した。自動車および大型トラックの生産はわずかに減少した。
金融	控えめに(modestly)引き締まった	報告期間中の金融情勢は、控えめに引き締まった。市場のボラティリティ(値動きの大きさの度合い)は大きくなり、債券および株式価格は大幅に下落した。企業向け融資需要は、全体として控えめに増加した。しかし、ある銀行関係者は、多くの顧客が経済情勢の不透明感から重要な決定を先送りしていると指摘し、別の銀行関係者は設備投資が鈍化していると述べた。あるM&A関係者は、M&A活動は「停滞」していると述べた。事業者向け融資の質と金利はわずかに低下、条件は横ばいだった。消費者部門では、融資需要はわずかに増加し、融資の質はわずかに低下した。消費者向け融資の金利および条件は横ばいだった。
農業	穀物生産農家の農業所得はほぼ変化はなし	トウモロコシ、大豆、小麦の価格は下落した。作付けの準備作業が進められていたが、管轄地区東部では多雨により準備作業が遅れた。農家の投入価格はいくらか上昇したが、販売業者側は販売を促進するため、融資金利を0%まで引き下げるなど、金利を引き下げた。牛の価格は上昇したが、卵、乳製品、豚の価格は下落した。関係者によると、畜産は農作物よりも財務状況が良いという。新しい農業機械の販売は限定的だった。
地域社会の状況	経済活動はわずかに減少	コミュニティ、非営利団体、その他の非営利団体関係者は、報告期間中の経済活動がわずかに減少したと報告した。多くの関係者が、連邦政府の政策変更が中小企業や低・中所得層コミュニティに悪影響を及ぼしていると懸念を表明した。州政府当局者は、経済活動にはほとんど変化はないが、経済見通しに関する不確実性が高まっていると報告した。連邦政府の資金削減の影響を受けた非営利団体で人員削減があったとの報告があったものの、地域の労働市場は全体的に安定していた。低所得層および中所得層の消費者は引き続き物価の高騰に直面しており、食糧支援団体の幹部は、卵と鶏肉の十分な調達に特に困難を抱えていると述べた。

(出所)シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成